

平成29年7月21日（金）

文化財課

担当者 小坂、安

内 線 5634、5625

直 通 076(225)1844

国の文化財の登録について

平成29年7月21日（金）に開催される国の「文化審議会」（会長 馬淵明子）において、文部科学大臣から諮問のあった別紙の案件の登録が答申された。今回の答申どおり12件の建造物が登録されれば県内の国登録有形文化財は260件となる。

(別紙) 答申された登録有形文化財〈建造物〉

件	名称、所在地	構造、形式	大きさ※1	年代	特徴	
1	いいだけじゅうたく 飯田家住宅 (金沢市小立野5丁目119番)	しゅ おく 主屋	木造2階建、瓦葺	234.3㎡	昭和3年頃 (1928)	金沢市の小立野台地の閑静な住宅地に建設された邸宅であり、主屋と塀で構成される。 金沢において数少ない昭和初期の洋風住宅建築として貴重である。
2		へい 塀	コンクリート造	延長56.5m	主屋と同 時期	
3	せいりんじきやくでん わくらごべんでんほんでん 青林寺客殿(和倉御便殿本殿) (七尾市和倉町レ61他)	木造平屋建、瓦葺	159㎡	明治42年 (1909)	和倉御便殿は皇太子行啓のために建設された休憩所であり、その本殿は昭和51年(1976)に青林寺に移築されている。総檜造で、檜皮葺(ひわだぶき)が瓦葺に改修されている。 随行員の控室である供奉殿は昭和35年(1960)に信行寺に移築され、昭和48年(1973)に書院として再移築されている。本殿と同様に檜皮葺が瓦葺に改修されている。	
4	しんぎょうじしよいん わくらごべんでんぐぶでん 信行寺書院(和倉御便殿供奉殿) (七尾市和倉町ソ16他)	木造平屋建、瓦葺	106㎡	明治42年 (1909)	便殿建築※2の希少な遺例であり、和倉温泉の近代史を語る建物としても重要である。	
5	おやまやしやうゆてん 小山屋醤油店 (七尾市相生町41-1)	てんぼけんしゅおく 店舗兼主屋	木造2階建、一部平屋建、瓦葺	290㎡	明治後期	七尾市中心部に位置する醤油店であり、店舗兼主屋、道具蔵である表土蔵、麴を発酵させる煉瓦造のムロ、醤油蔵で構成される。 店舗兼主屋は前面を土蔵造りとし、周りに土蔵を配置する。明治期に二度の大火を経た七尾に残る防火対策が採られた建物として貴重である。
6		おもてどぞう 表土蔵	土蔵造2階建、瓦葺	36㎡	明治前期	
7		ムロ	煉瓦造及び木造平屋建、瓦葺	44㎡	明治後期	
8		しやうゆくら 醤油蔵	土蔵造2階建、瓦葺	142㎡	明治前期	
9	きゅうたんごけじゅうたく 旧丹後家住宅 (鹿島郡中能登町能登部上へ12-1他)	しゅ おく 主屋	木造2階建、瓦葺	308㎡	昭和8年 (1933)	街道沿いに建つ大型の民家であり、主屋、土蔵、庭門及び塀で構成される。 絹織物業で成功した実業家の旧宅であり、織物産業で発展した中能登町を代表する農家風の近代和風建築である。
10		どぞう 土蔵	土蔵造2階建、瓦葺	71㎡	昭和前期	
11		おもて へい 表 塀	木造、瓦葺	延長21m	昭和前期	
12		におもん へい 庭門及び塀	木造、瓦葺	庭門:幅1.7m 塀:延長29m	昭和前期	

※1 面積は建築面積。 ※2 行幸・行啓の際の天皇や皇后の臨時の休息所。

飯田家住宅



小山屋醤油店 (Koyamaya Soy Sauce Shop)



青林寺客殿(和倉御便殿本殿)



信行寺書院(和倉御便殿供奉殿)



旧丹後家住宅

